

Frente



三重県男女共同参画センター
フレンテみえ
フレンテとはスペイン語で
「前向き」という意味です。

2024. 12

vol. 99

事業ご案内

- 男女共同参画フォーラム
～みえの男女2025～
『虎に翼』ジェンダー考証担当者と考える
“生きづらさ”と“自分らしさ”
- ホワイトリボンラン2025

事業報告

- 三重県総合文化センター
開館30周年記念事業
「ニキ・ド・サンファル展」
- 種まきプロジェクトI “地域”編
「わたしも地域ももっとよくなる！
～マインドチェンジ！ やってみたい、
わたしができるコト～」 ほか

スタッフコラム

- “気づき”の綿帽子
～その3 衆議院議員選挙より～

どこかではなく『ここ』＝出発の場所。

特集！

誌上
report

ニキ・ド・サンファル展関連企画
フォーカスみえ
上野千鶴子講演会「ニキと私」



ニキ・ド・サンファル展関連企画 フォーカスめえ

上野千鶴子講演会「ニキと私」

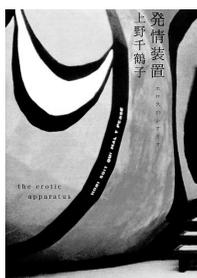
三重県総合文化センター30周年を記念して開催した「ニキ・ド・サンファル展」に寄せて、ニキの大ファンと自称する女性学の第一人者、上野千鶴子さんに講演いただきました。ニキ作品の遍歴とその背景にあるニキの生い立ちや当時の社会背景、そしてニキとの出会いが上野さんに与えた影響など、たっぷりとお話しいただきました。その中から一部を誌上Reportとしてお届けします！

鮮烈なデビューと射撃アート

ニキは若い頃、ELLEやVOGUEのモデルを務める美少女でした。そんなニキが、美術教育を受けたわけでもないのに、ある時、アーティストとしてデビューをした。その鮮烈なデビューが「射撃アート」というパフォーマンスアートです。真っ白の石膏で塗り固めた像に、弾丸の代わりに絵の具を詰めて、バッキューンと銃を撃つたびに、ダダーっと、本当に血を流すようなアートです。ニキは「私はテロリストになる代わりにアーティストになった」と言います。「私は、絵が血を流して死ぬのを見たかったから撃った。」「自分自身に向かって発砲することで、社会と社会の不正に向かって発砲しようとした。」激しいですね。殉教者の聖人に矢を投げる作品もあります。副題は「聖セバスチャンまたは愛人のポートレイト」。男性にリベンジしたい気持ちが出ています。この時代の女の子たちには、妻になり母になる、という選択肢しかありませんでした。ですから、花嫁の彫像を作って、そこにおぞましい小物をいっぱいつけて、そこにまた絵の具を投げた。ニキは女の運命、女性の役割への嫌悪が強く「結婚した女としての義務の重荷を負って絶望の叫びを上げている」と言っています。世の中に対する憎しみから出発した人だっていうことがよくわかります。



参考図書



上野千鶴子著『発情装置』
(1998年 筑摩書房)

この書籍の装丁はニキ作品『ホン』の一部。ニキの作品を書籍の装丁に使ったのは、世界でただ1人かも。フレンテみえ情報コーナーで貸出しています。

*本書はすでに絶版で、岩波書店から新版が刊行されています。新版の装丁はニキ作品ではありません。

ニキとの出会い：誘惑者としての娘、治療としてのアート

私がニキと最初に出会ったのは、アート作品ではなく映画でした。『ダディ』という映画です。その中で、彼女は父への憎悪を爆発させています。この映画を見たときに私は愕然としました。「これは私だ」と思いました。私は父に猫っ可愛がりされたけど、でも、それは所詮ペット愛だと感じていました。自分の都合のいい時だけ可愛がる愛。私は父に愛されましたが、父を軽蔑した娘です。その娘の立場に、ニキも立たされました。父と娘の間に何か隠密な関係があったらしいということを暗示する文章を残しています。

ニキは後に、驚くべき告白をします。1994年、64歳になった時に『MON SECRET (“私の秘密”)』というタイトルの本で、『11歳の時、父は私を情婦にしようとした。』と書きました。今から考えれば、これは子どもの性虐待です。11歳の時から50年以上経って初めて告白した。そのぐらい長い間トラウマが残るのですね。それで、ジグソーパズルのピースがはまりました。そうだったのか。それが、彼女のずっと思春期から長きにわたる神経症の原因だったのか、と。彼女は、荒れ、暴れ、異常な言動をし、自殺未遂をし、精神病院に何度も入退院を繰り返し、自分を傷つけてきた。父による性加害は家族の秘密でした。加害者は「誰にも言っちゃいけないよ、言えば家族が壊れるからね」と被害者の口を塞ぎます。ですが、自分の体が完全に物にされ、所有され、強者のものになるというレイプの経験は、少女にとっては死です。ということにニキははっきり書いています。それを言うためにこれだけの長い時間がかかったのです。アートが彼女にとっての自己治療の道のりだったという目で、もう1度、作品を見直していただいたら、なるほどお感じになると思います。

「ナナ」シリーズから「タロットガーデン」へ

そんなニキの暗鬱で攻撃的な作品が、陽気で明るい「ナナ」シリーズへと変身を遂げます。彼女の女友達が妊娠してやってきたその時に「はっ」と生命の讃歌を思った。それをナナと名付けました。ナナというのは、彼女の子どもの時の乳母の名前だったそうです。それで、命を守り、育むものとしての「ナナ」というシリーズが次々に出てきました。その1つがここ三重県総合文化センターにもあります。ニキの名前を知らなくても、子どもたちは大喜びですよ。みんなナナの真似をして、記念写真を撮るんだそうです。このはじけるような生命の讃歌、母体をおおらかに示す作品をニキは次々に作りました。やがて、彼女の好きないろんなアイコン、例えば蛇とかおっぱいとか、いろんなもので埋め尽くされた「タロットガーデン」という大規模な遊園地をついに彼女は作ります。自分が死んだ後にもこういうものが子どもたちのために残ってほしいと。イタリアのトスカナ地方にあります。私はまだ行ったことがありません。死ぬ前に1度でいいから行ってみたいと思っています。子どもたちには何も説明は要りません。ガーデンの中を大喜びして走り回ります。



フレンテみえ前のナナ像と



ニキとフェミニズム

ニキが自己解放を目指したのは、ヨーロッパでウーマンリブが起きる前で、女性解放という言葉が人々の口に上るよりも以前のことでした。全く1人でこの道を切り開いてきたのがニキです。ニキが『ナナパワー展』を開催した2年後に、フランスで女性解放運動が始まりました。ポンピドゥー・センターの館長、ポンテス・フルテンは、この出来事を「芸術家が事件を予告した」と言います。フランスの女性解放運動の影響を受けてニキが作品を作ったんじゃないかと、ニキの作品が時代の変化を予感したんだと。ニキの晩年の作品、イラストの中にいろんな文字を入れる絵手紙のような作品の中に、いろいろな言葉にまじって、「フェミニズム」という一語がありました。私はそれを見つけたとき、嬉しくて。フェミニズムが登場した後になって、ニキは自分がやってきたことがフェミニズムだったんだと、自分で認めたんだって思いました。

時代や歴史の中に、ニキの人生があって、これだけ花開いた結果を、私たちが今こうやって共有できる、目の前に作品を見て味わうことができる、本当に恵まれた、幸せな時代だと思います。あのニキの苦しみが、過去のものになってほしいと心から思います。

ニキと上野さんのエピソード

ニキは日本ともご縁がありました。彼女を日本に呼んだのは、ニキ美術館を作った日本で最大のニキ作品コレクター増田静江さんです。今から20年以上前、ある日突然、増田さんから電話がかかってきました。「上野さん、京都にニキを連れてくるのだけど、何かイベント仕込んでくれない?」って。それでイベントをやりました。

私と増田さんがインタビューをして、ニキに喋ってもらった。300人の会場が満杯になりました。彼女は日本語がわかりません。でも、私、今でも覚えてます。彼女が話すと、英語が通じないはずなのに、会場の人たちは前のめりになるのです。そのコミュニケーション力はすごい。本当にカリスマ的な人でした。



胸元にはナナのネックレス

上野さんのニキへのリスペクトが伝わってきます。ニキ作品への理解を深めるとともに、フェミニズムの歴史も感じることで、とても内容の濃い講演でした。総文ブログには学生ボランティアのレポートを掲載していますので、ぜひ併せてご覧ください。



Check!

事業予告

3/8 男女共同参画フォーラム ～みえの男女2025～

『虎に翼』ジェンダー考証担当者と考える“生きづらさ”と“自分らしさ” 同時開催:第37回 農山漁村のつどい

毎年「国際女性デー」に向けて開催している男女共同参画フォーラム。今回のホールイベントでは、朝ドラ「NHK連続テレビ小説『虎に翼』」において「ジェンダー・セクシュアリティ考証」を担当した福島大学准教授の前川直哉さんをお迎えします。

『虎に翼』は日本初の女性法曹、三淵嘉子さんをモデルとした主人公が、困難な時代に立ち向かい情熱をもって道なき道を切り拓いていく物語。放送開始当初から多くの反響を呼び社会的ブームとなりました。特にドラマやその登場人物をとおして描かれたジェンダーやセクシュアリティに関わる様々な課題はSNSなどでも活発な意見交換が起こるなど多くの関心を集めました。いずれも時代を経て解消するどころかほぼ現在にも受け継がれ、未だ私たちに強い“生きづらさ”を感じさせています。

女性に限らず男性も、そしてマイノリティと呼ばれる方々も、全ての人々が自分らしく自分の生きる道を選んでいけるようになるために知っておくべきこと、大切なこととは。ドラマ作りの背景も交えながらたっぷりお話をうかがいます。

今年度のフォーラムは「国際女性デー」当日の開催です! だれもが“自分らしく”歩んでいける社会に向けて、一緒に考えてみませんか。

事業案内

日時	3月8日(土) 10:00~15:30
会場	三重県総合文化センター内 三重県男女共同参画センター 「フレンテみえ」多目的ホール ほか
対象	テーマやゲストに関心のある方、ジェンダー平等や女性のエンパワメントを願う男女
参加費	無料
定員	150名程度
講師	前川 直哉さん(福島大学教育推進機構准教授)
託児	託児 あり 要事前申込 0歳3ヶ月~小学3年生程度 子ども一人につき1,000円 託児申込締切2/22(土)

ほかにも イベントがいっぱい

フォーラムでは、「第37回農山漁村のつどい」を同時開催するほか、フレンテみえパートナーグループによる分科会やパネル展示など様々な企画をお届けする予定です。皆さまのご参加をお待ちしています!

トークイベントゲスト

前川 直哉さん 福島大学教育推進機構准教授/NHK連続テレビ小説『虎に翼』ジェンダー・セクシュアリティ考証



福島大学教育推進機構准教授、一般社団法人ふくしま学びのネットワーク理事・事務局長。
1977年、兵庫県尼崎市生まれ。灘高校3年在学時に阪神・淡路大震災で被災。東京大学教育学部卒業、京都大学大学院人間・環境学研究科博士後期課程単位取得退学。京都大学博士(人間・環境学)。
灘中学校・高等学校教諭(地歴・公民科)在職時に起こった東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故の後、勤務校の生徒とともに福島・宮城の被災地域を訪れる「東北訪問合宿」をくりかえし実施。2014年3月に担任学

年の卒業にあわせ同校を退職し、4月より福島県福島市に転居。非営利の学習支援団体「一般社団法人ふくしま学びのネットワーク」を立ち上げ、理事・事務局長を務める。
2018年4月より福島大学教員。研究上の専門は、教育学・社会学(ジェンダー/セクシュアリティ)。著書に『〈男性同性愛者〉の社会史:アイデンティティの受容/クローゼットへの解放』(作品社)、『男の絆:明治の学生からボーイズラブまで』(筑摩書房)、『「地方」と性的マイノリティ:東北6県のインタビューから』(共著、青弓社)などがある。

3/2 ホワイトリボンラン2025 in みえ



三重
拠点

ホワイトリボンランは、3月8日国際女性デーと連動させて2016年に発足したチャリティファンラン大会。今回で記念すべき10回目となります!「走ろう。自分のために。誰かのために」というコンセプトのもと、国際女性デーに世界中の女性の健康を願い、みんなで同じ公式Tシャツを着て走ります。自分の健康のために、そして世界の女性の健康のために走るランナーを募集!

エントリー費の収益全額が寄付され、世界の女性の命と健康を守る活動に使われます。参加者全員にはカッコいいチャリティTシャツがプレゼントされますよ。

みえ拠点は3月2日に津市内のHOWAパークで開催。順位を競ったりせず、自分のペースで楽しく走れる「ファンラン(楽しく走る!)」ですので、ゆっくりでも大丈夫!「自分のために、誰かのために」みんなで走りましょう。

事業案内

日時	3月2日(日) 10:00~12:00
会場	HOWAパーク(中勢グリーンパーク)
対象	どなたでも
エントリー費	25歳以上 5,500円 中学生~24歳 4,000円 小学生以下 3,000円 (申込は専用のエントリーフォームより)
定員	30名程度(事前エントリーが必要です。エントリー締切1/20(月))



事業報告

Event Report

フレンテみえ 種まきプロジェクトI “地域”編 鳥羽市・フレンテみえ 連携講座

わたしも地域も もっとよくなる!

～マインドチェンジ! やってみたい、わたしができるコト～

開催日 7月20日～9月7日(全3回)

あなたが感じている「自分もまちも、もっとこうならいいのに」という想いを叶えるために必要な意識や手法を仲間と学ぶ地域連携講座。名古屋学院大学准教授でパブリック・ハーツ株式会社代表取締役の水谷香織さんを講師にお招きし、今年度は鳥羽市との連携講座として開催しました。

レクチャーだけでなく、参加者が「自分はできる! 大丈夫!」と自信をつけたり将来のビジョンを描いたりなどの様々なワークや現職女性市議会議員との座談会も行いました。また各講座日の間には、鳥羽市で実際に夢を実現されている方を訪ねる「フィールドワーク」も開催。夢にかけたいや課題解決のヒントなど様々なお話を直接うかがい、大きな刺激となりました。最終回では各自が思い描く“未来”を「映像化」するワークも実施し、参加者の皆さんも笑顔で楽しみながら、全回を通して非常に充実したプログラムとなりました。

参加者からは「今回の講座に参加して、自分の暮らすまち、地域を以前に増して考える事ができた」「自分の中に秘めている想いや、ビジョンを再認識できた」など、前向きな声が多数寄せられました。

地域の女性の皆さんが元気に“一歩”を踏み出すための応援団として開催している「種まきプロジェクト“地域”編」。もしあなたの“まち”におじやましたときはぜひ! ご参加お待ちしております!



自分にOK 自分にYES! 女性のための自己尊重トレーニング

開催日 7月20日(土)～7月21日(日)

多くの女性が自分にOKを出せない、自分にYESと言えないのはなぜでしょうか。

他人を優先して自分のことを後回しにしてしまうのはなぜでしょうか。

どうしたら自分にOKを出せて、自分にYESと言えるようになるのでしょうか。

フェミニストカウンセラーの増井さとみさんを講師にお招きして開催した「女性のための自己尊重トレーニング」では、女性に自己尊重感を持ちづらくさせるような社会的背景があるということ、自己尊重感を育むためにはまず自分自身をよく知る必要があること、自分も相手も大事にするコミュニケーションを身に付けること等、多くのことを学びました。

また参加者同士で行ったワークでは、自分自身について語り、きいてもらい、相手に語ってもらい、相手の話に耳を傾けました。

最初は自分にOKを出せそうにないと話していた参加者も「少し自分を好きになれた気がする」「自分にYESと言えるようになりそうだ」という思いを持つことができたようです。

次年度は4月開催予定。詳しくはフレンテみえホームページをご確認ください!



三重県内男女共同参画連携映画祭2024

開催日 6月2日(土)～10月26日(土)

今年で18年目となる県内市町連携映画祭。「男女共同参画週間」のある6月を中心に、22市町と連携し、県内17会場で開催しました。各会場では、話題の感動作からコメディタッチの作品など、様々な映画作品の上映が行われました。また、上映作品を通じて男女共同参画についてより理解を深めるために、作品の見どころを解説するプレトークや、より内容を深めるための意見交換などを行うアフタートークを実施しました。

参加者の感想(抜粋)

- 男女の役割や助け合い、相手の思いを大切にしていこうと思いました。(川越町・朝日町)
- 周りに流されず、自分で考えて行動することの大切さを教えられました。(四日市市)
- 人生をどう生きるか、家族のあり方について考えるよい機会になりました。(熊野市)
- 映画がとて面白く学びになった。男も女も関係なく、全員が自分らしく生きられる社会であってほしいです。(桑名市)
- 話を聞いてから観たからか、素晴らしい映画で、音楽がまたとてもうまくて涙が出ました。また参加したいです。(津市)
- 年令、男女等に捉われない事から生まれる可能性を感じました。(亀山市)

事業報告

Event Report

三重県総合文化センター開館30周年記念事業 「ニキ・ド・サンファル展」

開催日 8月31日(土)～9月23日(月・祝)

三重県総合文化センター開館30周年記念事業「ニキ・ド・サンファル展」は、短い会期を惜しまれながら9月23日、無事閉幕しました。開幕直後は台風の影響を受け心配しましたが、その後は好天に恵まれる日も多く、たくさんのお客様にご来場いただきました。(なんと遠くは北海道、果てはフランスからのお客様も!)

今回のニキ展では、社会への怒りを表現した「射撃絵画」、自由で元気な女性をモチーフにした「ナナシリーズ」、ニキ作品のコレクターであるYokoこと増田静江さんに送った「絵手紙」など、初期から晩年前までの約130点が三重にやってきました。また、事前に募集した、子どもたちが描いたそらぶんの「ナナ」像の絵も会場をにぎやかにしてくれました。

また、関連企画として、ニキ美術館（現在休館中）の元館長、黒岩有希さんのミュージアムセミナーや、ニキの大ファンである上野千鶴子さんの講演会も開催（巻頭特集）。子ども向け企画として会場内で自由に作品を描ける「お絵かきツアー」も実施しました。描きたい作品を選び、其々の画風で、生き生きと描く姿は微笑ましくもあり「もっと自由でいいよ」という大人たちへのメッセージにも感じました。



この「もっと自由でいいよ」というのは、ニキの作品からも受け取ることができました。来場者アンケートでも「ナナを見るといつも元気になる。それは自分の心や感情をありのままに表現しているの自由で見ている人が元気になるのだと思いました」「自由な女性が描かれて、見ると勇気がでた」など、作品からエンパワーメントされたという声をたくさん聞きました。ほかにも、「ジェンダーについて文章やニュースではなく、このような形で強く訴えかける展示は初めてで言葉に出来ず溜まっている。」「頭で理解するのは異なる何か、心を動かす何かを不意に届けてくれるチカラがアートにはあるんだと改めて思われました。」というコメントも。

男女共同参画やジェンダー平等について伝えていく方法も多様。フレンテみえでは、これからも多様な方法でジェンダーについて感じたり、考えたりする機会を作っていきたいと思います。



フレンテみえ 相談室の 30年

三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」は平成6年に開設された「女性センター」時代を含めて今年で30周年を迎えました。フレンテみえ相談室では、性別にとらわれずに自分らしく生きていくための様々な悩みについて相談をお受けしてきました。

女性センターから男女共同参画センターへと移行した平成13年以降にお受けした「女性のための電話相談」は年平均1800件余り。面接相談や法律相談、男性相談などを含む全相談件数は年平均2200件余りと、多くの方に利用いただけてきました。

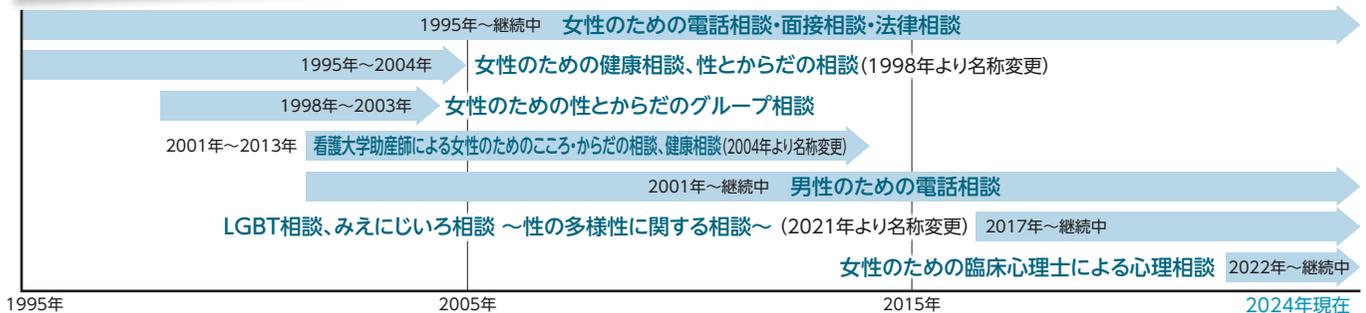
相談のシステム

相談員は、男女共同参画の視点に立った専門家を招き定期的に研修を受けています。「フレンテみえ相談室」としての質を保ち、的確な相談を提供するためです。そして相談を受ける中で見つかる共通の課題を社会の課題として捉え、各種講座の企画に繋げ、実施しています。また、講座の修了後も学びを継続したい方のために、自主グループ立ち上げも支援しています。フレンテ発行の情報誌やホームページで講座の案内や男女共同参画に関する情報を発信するとともに、様々な支援機関のパンフレットや関連図書などを直接手に取ってご覧いただける情報コーナーを設置するなど、センター全体として相談を支えるシステムがあります。

フレンテみえ相談室では、次のような視点であなたを支えます

- 私たち（相談員）は守秘義務を守り、相談者に安全・安心の場を提供します
- 私たちは相談者の気持ちや悩みをありのままに受け止め、気持ちを整理するお手伝いをします
- 私たちは同じ女性として対等な関係の中で、相談者の問題に真摯に向き合います
- 私たちは女性が家族や社会で身につけた固定的な役割意識から自由になり、自らの生き方の選択肢を増やし、自分で意思決定できるように支援します
- 私たちは女性の悩みはそれぞれ個人的なものであっても、文化や社会の制度の中で、“女性として”育てられ、“女性として”扱われることによる共通の問題が背景にある、という理解のもとで相談をお聴きします

ニーズに応じた各種相談



相談室創設時から継続している「女性のための電話相談・面接相談・法律相談」。法律相談は2006年から、面接相談は2020年から託児サービスも導入しています。2013年まで「女性のための健康相談」等を開設し、助産師・産婦人科医師などが相談に対応していましたが、女性の専門外来ができてきたため相談の役目を終えました。2001年、三重県男女共同参画センターへの名称変更に伴い「男性のための電話相談」を、2017年には多様な性のあり方に悩む方に向け「LGBT相談」を開設。どちらも当時の男女センターでは先駆的となる取組でした。時代や利用者のニーズに応じ、各種相談体制を充実させてきています。

相談室の一例です。困ったなと思ったら、ひとりで悩まないでご相談ください。相談室の詳細はこちらから→

相談室の例:

- 離婚を考えているんだけど… 弁護士に無料で相談できるのかな？
- 自分の性別に違和感があるのですが、誰にも相談できなくて…
- パートナーからいつも「お前が悪い」って言われてつらいです。身体的暴力はないんだけど、DVって思ってもいいのでしょうか？
- 家事も育児も介護も全部私の責任って言われて…。うまくやれない私が悪いんですよね…
- パートナーが浮気していることがわかりました。ショックです。これからどうすればいいんでしょう？
- 職場の人間関係に悩みます。転職も考えていますが踏み切れなくて…
- 母親との関係が息苦しい。そんなふう思う私ってひどい？

